

地質情報管理士資格検定試験に合格して

東邦技術株式会社 長谷川 真優美



このたび、令和5年度「地質情報管理士」資格検定試験を受験し、無事合格することができましたので、私の経験が参考になればと思い、僭越ながら合格体験記を書かせていただきます。

【受験の動機】

この受験は数年前から考えてはいたのですが、コロナ禍で試験自体が中止になったり、自分の年齢を考えて私が受かるわけがないと諦めたりとなかなか受験の申込みに至りませんでした。

しかし、R5年度から業務、工事にBIM/CIMの原則適用、情報共有システム（ASP）の活用、オンライン電子納品の実施等、業務フローの変更を伴う新たなルールの導入があり、また、今後、地質調査業務を行う上で、地盤情報の利活用、電子納品の品質確保のためにもこの資格の重要性を強く感じ、受験を決意しました。

【試験対策】

受験申込後、まず前年度のテキストと過去問をダウンロードし、テキストはできるだけ時間を見つけ読むように努めました。今年度から試験問題が一部見直され、第一部、第二部（四肢択一10問、20問）、第三部（論述、必須2問、選択1問）となり、試験の内容も一部追加され、今までと出題形式、内容が変更されました。試験1ヶ月前に配布された事前講習用新テキストの内容も240頁と膨大な量に増えたため、全部に目を通そうとしましたが出来ず、新しいジャンルに重点をおいて読むことにしました。試験内容が

変わったとは言え、過去問は過去5年分を何度も解き、間違えた箇所、わからない言葉等を調べてメモし、理解するようにしました。

論述はどのような問題が出題されるのかわからなかったため、テーマを自分なりに決め、テキストの第3部に書かれていた要点を参考にし、自分の言葉でまとめ、実際に書いて繰り返し演習しました。日頃、字を書くこと自体少なくなっていたので、400字×3問となると試験の時間内に書き終わるにはかなり厳しいなど感じながら時間配分に気を付けて演習しました。

【試験当日】

試験当日、第一部、第二部の択一問題が過去問の出題傾向と変わっており、問題を見て焦りましたが、とにかく自分を落ち着かせて問題に取り組みました。第三部の論述は、必須が自分で予想した問題と類似していたため、どうにか書くことができましたが、選択問題はかなり悩みました。それでも今自分が持っている知識を絞り出し、時間いっぱい粘りましたが、納得いく回答が出来ず、手ごたえは全くありませんでした。

【合格して】

合格発表の日、HPで自分の番号を見つけた時は本当に驚きましたが、無事合格することができ嬉しかったです。今後は、資格の名に恥じないよう、資格取得を通じて得た知識を生かして日々の業務に取り組んでいきたいと思えます。